

戦後 80 年にあたっての平和を願うメッセージ



ここ鹿屋市は、かつて真珠湾攻撃の作戦が練られた「鹿屋会談」が行われた地であり、太平洋戦争末期には、鹿屋、串良、笠野原の3つの飛行場から、日本で最も多くの特別攻撃隊員の方々が、大切な家族の幸せと祖国の平和を願い、南の空へと飛び立った場所でもあります。また、終戦間もなく進駐軍の主力約2,500人が高須の金浜海岸に上陸するなど、戦争の歴史と深く関わってきたまちです。

私たちが今、平和で豊かな日々を送ることができるのは、祖国のために尊い命を捧げられた多くの方々の思いと、戦後の混乱の中で力強く歩みを進め、平和な社会を築き上げてこられた先人たちのたゆまぬ努力の積み重ねによるものです。そうした方々に対し、深い感謝の念を抱かずにはられません。

戦争を知らない世代が多くなっている今、当時何が起き、人々が何を感じ、何を思ったのかを正しく知り、その記憶を次の世代へ語り継いでいくことが、ますます大切になっています。

本市では、戦後80年という大きな節目を迎えるにあたり、これまでの取組を発展させるとともに、新たな取組も進めてまいります。戦前・戦中・戦後における本市の街や暮らしの様子、そして戦争体験者から語り継がれた記憶を次世代へと確かに繋いでいくため、新たに特別企画展の開催、創作演劇の公演などを計画し、より多くの市民の皆様に平和について考えていただく機会としてまいります。

また、本年は、これまで市内3か所で行ってきた戦没者追悼式を合同で開催し、市全体で平和を願う式典とするとともに、御遺族の皆様が交流できる場となることを期待しております。

今なお世界各地で悲惨な戦禍に苦しむ人々の姿が報じられるなか、私たちは改めて、過去の歴史と真摯に向き合い、犠牲になられた方々の御冥福をお祈りするとともに、戦争を体験された方々や御遺族の思いに耳を傾け、市民一人ひとりが「平和とは何か」を問い直し、その尊さを心に刻むきっかけとなるよう、取組を進めてまいります。

これからも「戦争のない平和な世界の実現」を目指し、ともに力を尽くし行動していただくことを、心よりお願い申し上げます。

令和7年7月1日
鹿屋市長 中西 茂